**資料１**

**大阪はびきの医療センター新病院基本計画（中間報告案）概要版医療センター整備計画検討の結果**

**１　建て替えの必要性**

**・施設・設備の老朽化と過大な維持管理コスト**（建設後４４年経過等）

**・医療機能の高度化等への対応の遅れ**（手術室や外来、放射線検査のスペース不足等）

**・患者療養環境の不備**（結核感染症患者と一般患者の動線同一による感染のリスク、個室不足等）

**３　施設整備計画の概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 部　門 | 内　　容 |
| 外 来 | ・消化器内科の増、化学療法の外来化等を考慮した規模を確保外来患者数650人/日（H28：608人/日）・外来化学療法20床（現行10床）・ブロック化を進め、人員配置やスペースを効率化 |
| 病 棟 | ・１フロアー原則２病棟、１病棟当たり概ね４４病床・個室は一般病床の30％程度（現行28％）結核・産科・小児科は個室率を高める |
| 手 術 | ・手術室は1室増の6室整備し、ハイブリット手術室の採用を検討・手術室は狭隘化を改善し、どの術式にも対応できる施設とする |
| その他 | ・災害対応として免震構造を採用し、災害時の患者受入れ設備を整備・感染症外来棟、感染症センターの建物は引き続き活用・既存の医療機器は可能な限り継続利用・一部敷地の売却又は賃貸による収益確保を検討 |

**２－１　新病院が目指す姿**

**呼吸器、アレルギー、結核・感染症医療の分野で、先導的かつ中核的な役割を担う拠点病院**

**地域の医療を支え、住民や医療機関から頼りにされる南河内地域の拠点病院**

**２－２　医療機能の方向性**

**① 先進性、専門性を発揮した政策医療の推進**

**具体的な機能：**結核医療の拠点機能、難治性呼吸器疾患・肺がん医療（がん診療拠点病院）、

　　　　　　　難治性アレルギー疾患医療、感染症機能（エイズ、SARS、新型インフルエンザ等）等

**② 結核・感染症、呼吸器疾患治療における併発症への対応**

**具体的な機能：**呼吸器疾患との併存症が多い疾患医療（循環器疾患、消化器系疾患）

**③ センターの高度専門性を活かした地域医療への貢献**

**具体的な機能：**救急医療、呼吸器疾患の在宅医療の後方支援機能、周産期部門、乳腺部門、眼科部門、

　　　　　 小児部門、病理診断、地域医療支援病院

**２－３　整備にあたっての基本方針(コンセプト)**

**２－４　新病院の病床数及び診療科**

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 内　　容 |
| 病床数 | 405床（一般病床、第2種感染症病床、結核病床） |
| 診療科（23科） | 呼吸器内科、肺腫瘍内科、呼吸器外科、感染症内科、アレルギー内科、小児科、皮膚科、眼科、循環器内科、消化器外科、乳腺外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、消化器内科（新設）、放射線科、歯科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科、臨床検査科、集中治療科、外来化学療法科、呼吸器内視鏡内科 |

**４　建設計画**　　　　　　　　　　　　　　　　③建物断面イメージ

①配置案

　





地域医療機関との連携・支援機能の強化

患者の療養環境

の向上

高度専門医療のより一層の充実

（「はびきの」

ブランドの発信）

安全で、働きや

すい職場環境の

整備

柔軟性があり、

経営改善の観点も踏まえた施設

整備



**＜収支見込＞**※平成29年7月時点　　（単位：億円）



※平成29年７月時点。概算費用であり、今後変動する可能性がある

※今後、大阪府の予算により決定する

**５　整備手法及びスケジュール**

　整備手法については、事業者の創意工夫の促しやすさ、整備スケジュールの早期化、建設コスト縮減などの観点から、デザインビルド方式とする。

30年度：基本設計、31年度：実施設計、32～３3年度：工事　　　34年度中：開院を目指す